

早期に有効茎を確保することがポイントです！

①栽植密度の確認と②活着後の浅水管理を徹底しましょう！

(1) 田植え

○栽植密度は、**60～70株/坪**

(山間部など穂数確保しにくいほ場では、70株植えを推奨)

○植え付け深度は、**3cm程度**とし、深植えにならないよう注意する。

○植え付け本数は、**3～4本/株**

○穂数確保、登熟期間中の日射量確保のため、**5月連休中**に田植えをする。

(2) 施肥量

(遅くとも**5月15日まで**)

施肥量は、下記を目安として地域やほ場の地力を考慮し、増減しましょう。

移植時期	一発肥料体系 (10aあたり)	備考
普通期移植 (5/1～15)	「ひやくまん穀一発くん」 43～45kg	窒素 12～12.6kg

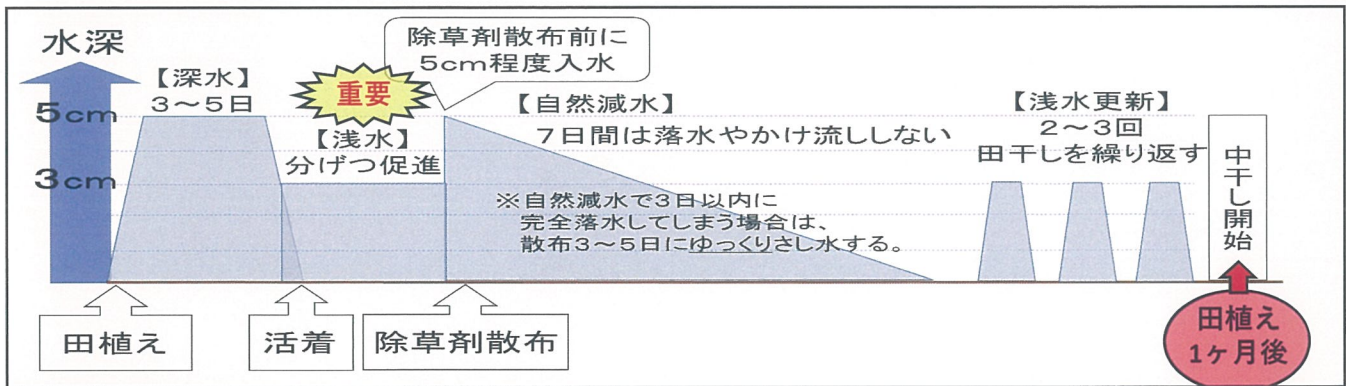
※大豆跡や前年度倒伏したほ場では、4～7kg/10a程度減肥する。

(3) 初期の水管理 ～初期分けつ発生 (=有効茎の確保) に努めましょう～

活着後は速やかに**浅水管理 (水深3cm程度)**とし、初期分けつの発生をうながす！

深水管理を続けると、分けつの発生が遅れるだけでなく、

出穂期も遅くなり、登熟低下のリスクも高まります



参考

なぜ早期に有効茎を確保する必要があるのか？

→ 8.5葉期以降に発生した分けつは、穂にならないからです！

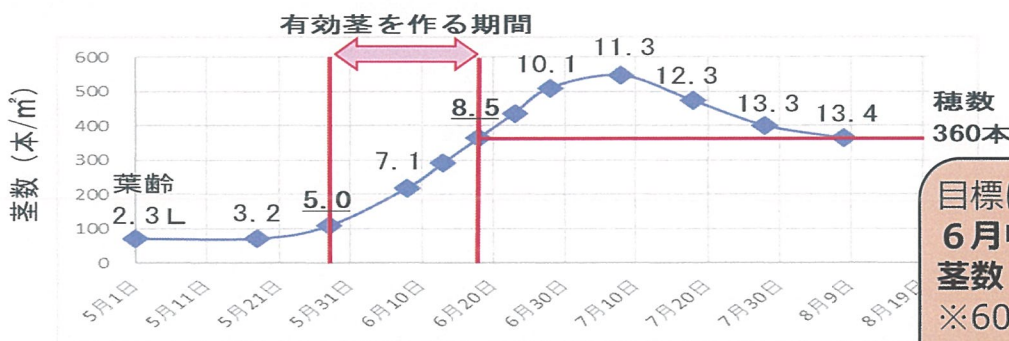


図 60株/3.3㎡の葉齢展開と茎数の推移 (イメージ)

目標は、
6月中旬までに
茎数360本/m²！！
※60株植え→20本/株
70株植え→17本/株